

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価				達成度(評価) A: 十分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である D: 不十分である					
学校名		基山町立若基小学校							
1 前年度 評価結果の概要		・最終評価では、全項目について、A評価であり、取り組みの成果が出ている。 ・教師の指導力を向上させ、個に応じたきめ細かな授業改善による学力向上が望まれる。							
2 学校教育目標		きたえ やりぬき まなびあう 元気いっぱい 自分から学び 共に高めあう子供							
3 本年度の重点目標		・表現活動の充実 ・早寝・早起き・朝ごはん、外遊び ・縦割り活動の充実							
4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価				
(1)共通評価項目									
重点取組									
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価 進捗度(評価) 進捗状況と見通し	最終評価 達成度(評価) 実施結果	学校関係者評価 評価 意見や提言			
●学力の向上【学びづくり】	●「書く活動」について、全職員による共通理解と共通実践	●「書く活動」を意識した授業づくりができて「書く」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が85%以上。	●学力向上対策評価シートの共通実践を取組に位置づけ、実践状況を確認する。	B	・全ての職員がマイプランを設定し、計画通りに日々の授業実践に取り組んでいる。 ・児童の学習への取組は良好であるが、個人差が大きいため、苦手な児童への手立てをさらに工夫していく必要がある。	A	・学校評価アンケートでは、91%の教員が、児童は自分の考えを工夫して書く活動ができていますと回答している。今後も書く活動を意識した授業づくりを継続していくことで、児童の思考力・表現力を高めていく。		
	○タブレット端末を活用した授業づくりに取り組む。スキルタイムを充実させ、基礎的・基本的な学力の定着を図る	○「タブレット端末を活用した授業はたくさんの方が学べる」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が80%以上。 ○市販テストの「知識・技能」の学級平均が85%以上。	・タブレット端末を活用した授業作りの研修会を設ける。	B	・指導業務検討会や授業研究の中でタブレット端末を活用した授業づくりについての研修を積んだ。 ・市販テストの「知識・技能」の学級平均85%以上を達成している学年は3学年であるため、さらなる基礎・基本の定着に取り組む必要がある。	A	・児童アンケートでは、授業でタブレット端末を活用することに對して、84%の児童が肯定的な回答をしている。今後も、様々な形でタブレット端末を活用し、学習意欲向上や達成感につなげていく。 ・市販テスト「知識・技能」の平均がほぼ85%以上であることから、多くの児童に基礎・基本が定着していると考える。	A	・子供がタブレット操作に慣れ、友達とのコミュニケーションにも使用しており、保護者として満足している。 ・タブレット使用は学力向上の原動力である意欲につながっていると思う。
●心の教育【仲間づくり】	●縦割り活動を通して、児童の自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的な倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を育成する。	●人の役に立つことにやりがいを感じる」や「学校行事で、自分が頑張ったことをいえる」という質問に対して肯定的な回答をした児童が80%以上。	・縦割り活動(けやきタイム・縦割り掃除)の充実。 ・若基3つ集会・人権集会・ありがとう集会など異学年による交流活動を行う。	A	・けやきタイム、運動会の応援練習で異学年交流を行った。(縦割り掃除はコロナ感染予防のために見合わせ中) ・若基3つ集会・人権集会・ありがとう集会は計画中。	A	・児童のアンケート結果では、肯定的な回答の児童が8割以上であった。コロナウイルス感染予防により、活動は限られたが、運動会や集会活動などを通して、児童は達成感や味わったことが、自己他者も大切にしようとする気持ちがあがってきた。教師アンケートでも同様で、ほぼ100%の割合で肯定的な回答が返された。	A	・コロナ禍の中、状況に合わせた活動ができていたと思う。人前で話す機会があればいいなと思う。 ・縦割り活動は、思いやりや助け合いの心を育てると思うので、今後とも継続してほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための組織的対応ができていたと回答した教師が90%以上。	・いじめアンケートの実施 ・気になる児童の情報共有や教育相談研修会を行う。	A	・いじめアンケートを月に1回実施し、気になる児童には聞き取りなど事後指導を行った。 ・生徒指導連絡会を週に1回実施し、児童に関するの情報交換と情報共有を行った。	A	・いじめアンケートを月に1回実施し、気になる児童には事後指導を行い、いじめの予防に努めた。 ・アンケートの結果、肯定的な回答をした教師は100%であった。情報共有や研修会を定期的に行い、いじめの早期発見・対応に向けて、組織的に取り組むことができた。	A	・アンケート後の児童への対応、保護者への早期の対応、校内での情報の共有が良くなされている。 ・いじめはあってはならないことを常日頃から皆で認識することが大事である。
●健康・体づくり【生活づくり】	●夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組む児童を育成するための教育活動(学校独自成果指標・注意)	○学校行事を通して、自分の良さを発見することができたと言えた5、6年生児童が80%以上。	・児童の主体性や活動意欲を高める活動を仕組む。 ・キャリアパスポートを活用し、児童が自分の良さを発見できるような振り返りを行う。	A	・運動会や委員会が児童が主体的に活動し、意欲的に活動することができた。 ・キャリアパスポートの取り組みを行い、児童が自分の良さを発見できるような振り返りを行った。	A	・アンケートの結果80%の児童が「学校行事でがんばったことが言える。」と言っていた。学校行事で達成感を味わい、夢や目標に向かって、自分の良さに気づくことができた。 ・キャリアパスポートの取り組みを行い、児童は自分の良さを発見できるような振り返りを行うことができた。	A	・キャリアパスポートの12年後の成果を願っている。より、有効な活用について考えてほしい。
	●望ましい生活習慣の形成	●早寝(上学年は22時まで、下学年は21時30分までに就寝)・早起き(7時までに起床)・朝ご飯(食事内容を問わず)・運動(1日合計1時間以上)を達成した児童が80%以上。	・学期に1回生活習慣チェックを行う。 ・保健だよりなどを発行し、規則正しい生活習慣の大切さ(特に睡眠について)を児童・家庭に伝える。	A	・保護者向けに保健だよりを発行し、睡眠の大切さについて啓蒙することができた。 ・児童向けに各学級で養護教諭と担任で睡眠についての指導を行うことができた。	A	・早寝88%、早起き92%、朝ご飯96%、運動99%の児童が達成できた。運動が好きな児童も90%おり、外遊びを行う児童も多い。新型コロナウイルス対策を行うなど、児童の健康に関する意識も高まっている。	A	・コロナ禍にあり、運動不足になりがちであるが、外遊びなどをよくして、素晴らしいことだと思える。 ・早寝について保護者への周知が必要ですね。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進【管理職】	●業務10%削減の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外勤務時間が月45時間以内の職員が80%以上。	・引き続き、業務改善と、業務10%削減 ・毎月、超過勤務時間集計を行い、職員会議等で報告する。 ・定時退勤日の設定	A	・計画的な業務遂行と早めの退勤を日常的に呼びかけた。 ・職員会議資料のペーパーレス化に取り組み、教頭、事務室の負担軽減を図っている。 ・平日の18:30施設はほぼできている。	A	・働き方改革の基礎となる、職員の意識改革に取り組む。成果指標に到達した。 ・業務に優先順位を付けて取り組む職員の割合は91%であり、ほとんどの職員が18:30までに退勤するなど、職員の意識と行動の変化が見られる。	A	・ペーパーレスや業務改革は必須ですね。 ・先生方の意識改革が成果指標に到達したことは評価できる。 ・学校全体よく取り組まれている。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組									
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価 進捗度(評価) 進捗状況と見通し	最終評価 達成度(評価) 実施結果	学校関係者評価 評価 意見や提言			
○特別支援教育の充実【特別支援教育部】	○児童一人一人の能力を伸ばし、多様な交流を通して、互いに認め合い、高め合う仲間集団の育成	○教師の専門性と意識の向上、専門性が向上したと言えた教員80%以上。	・合理的配慮を意識した指導内容・方法の改善 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・日々、個々の能力や特性に応じた教材や視覚支援を準備した教材作りを続けている。また、研究発表において互いの授業を参観し合い、指導内容・方法を共有することができた。 ・7月に講師を招いて職員研修会を行った。 ・専門家や医療機関など、外部の関係者も交えたケース会議を年間を通して開催した。 ・本教の課題として、全児童者の特別支援教育に関する意識向上のための啓発活動が挙げられる。	A	・交流学級担任との連携を密にし、支援学級担任以外の職員による授業補助を導入するなど、全職員が高い意識をもって特別支援教育に取り組むことができた。 ・専門家や医療機関など、外部の関係者も交えたケース会議を、年間を通して開催した。 ・本教の課題として、全児童者の特別支援教育に関する意識向上のための啓発活動が挙げられる。	A	・地域・学校・保護者が一体となって子供たちを育てていく社会を目指したい。
○地域連携の充実【ふるさと学習部会】	○ふるさと基山に誇りに思う心の育成	○ふるさと基山について、資料を使って、学習ができたと言えた児童80%以上	・資料名やページ番号を記載した年間指導計画の作成	B	・「ふるさと基山」について、資料を使って、学習ができたと言えた児童が84%おり、成果指標を達成した。94%の保護者が学校はきや非常時の充実を認めていると回答しており、基山町の方から基山のことを誇ることができて、ふるさと基山について理解を深めることができた。	A	・保護者の意識について、「大体そう思う」が多い。学校の取組の様子を積極的に発信したほうが良い。		
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ○・・・志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望		・全評価項目について、A評価であり、取組の成果が出ている。学校運営協議会委員の皆様から、好意的で協力的な評価をいただいている。 ・共通評価項目(4項目)と共に、本校の教育課題を踏まえた独自評価(2項目)を設定し、全職員の共通理解のもと取り組み、教育活動や学校運営の一層の充実を図ることができた。							